

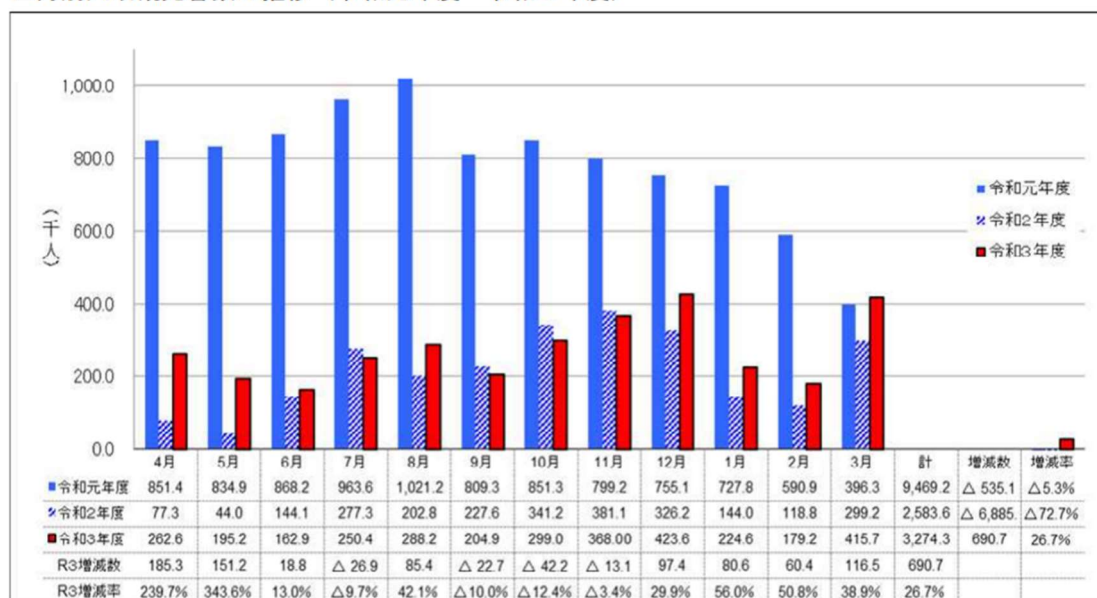
令和3年度事業報告

I. 総括

1. 沖縄県の入域観光客の概況

沖縄県の発表によると、令和3年度（2021年度）の入域観光客数は327万4,300人（前年度実績258万3,600人）で、対前年度比で69万700人、率にして26.7%の増加となり、3年ぶりに増加に転じた。しかし、対前々年度比では619万4,900人の減、率にして65.4%の減少となっており、厳しい状況が続いている。令和2年度と比べて増加した要因として、「ワクチン接種の普及」「国内航空路線における減便規模の縮小」「夏季期間における季節便運航」「プロ野球キャンプの有観客での実施など」が示されている。

■月別入域観光客数の推移（令和元年度～令和3年度）



出典：令和3年度 沖縄県入域観光客統計概況 文化観光スポーツ部 観光政策課

令和3年度の国内観光客については、令和2年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛等から旅行需要は低調となった。しかし、令和2年度と比べると増加しており、ワクチン接種の普及などが影響したものと考えられる。

4月のまん延防止等重点措置に続き、5月から9月までの長期間にわたり緊急事態措置が適用され、感染状況が落ち着いた11月以降、段階的な経済活動再開により徐々に回復傾向が見られたものの、1月以降再びまん延防止等重点措置が適用となるなど、これによる影響が大きかった。

また、外国人観光客についても、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響から、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことにより、外国人観光客がゼロとなった。

令和4年度の国内観光客の動向としては、新型コロナウイルス感染症による影響が見込まれるものの、ワクチン接種の普及や経口治療薬の普及、GoTo トラベル事業の実施などによる旅行需要の回復が期待される。また、外国人観光客については、日本への入国制限措置が段階的に緩和されているものの、観光目的での入国は認められていないことから、当面厳しい状況が見込まれる。しかし、規制緩和に方針転換する国が増えてきており、国内外の動向に注視していく必要があるとしている。

2. 那覇市の入域観光客の概況

令和3年（暦年）の那覇市の入域観光客数は、301万6,700人となり、対前年比で158%となったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により旅行需要は低調となった。また、外国客についても、入国規制措置の影響からゼロとなった。

国内客については、令和3年9月末に各地域に出されていた緊急事態宣言が解除され、10月以降に入域客数の増加傾向がみられた。

【那覇市の入込観光客数の推移（直近5年間）】

	入込観光客数		国内客		外国客	
	人数（人）	対前年比	人数（人）	対前年度比	人数（人）	対前年度比
平成28年度	7,767,042	108.7%	5,981,552	104.6%	1,785,490	125.6%
平成29年度	8,446,663	108.8%	6,224,222	104.1%	2,222,441	124.5%
平成30年度	8,818,403	104.4%	6,382,633	102.5%	2,435,770	109.6%
令和1年度	8,919,809	101.1%	6,429,409	100.7%	2,490,400	102.2%
令和2年度	1,909,300	21.4%	1,909,300	29.7%	0	0.0%
令和3年（暦年）	3,016,700	158.0%	3,016,700	158.0%	0	0.0%

出典：令和3年度那覇市の観光統計（那覇市経済観光部観光課）

3. 那覇市観光協会の取り組み概要

令和3年度については、長らく続いている新型コロナウイルス感染症による影響から、年度当初の大型イベントとなる沖縄国際映画祭や那覇ハーリーは、2年連続でそれぞれ規模縮小と中止を余儀なくされた。その後には計画されていた那覇大綱挽祭りや国際通りにおいて計画されていた大型イベントも中止、NAHA マラソンはオンラインマラソンに振替となり、那覇観光の大きな魅力となっている祭り・イベントの多くは開催が困難となり実施されていない。観光協会としては、これらイベントの実行員会及び幹事会等において、所管団体や関係機関とともに連携して実施検討に努めてきた。

プロ野球「読売巨人軍那覇キャンプ」支援については、有観客によるキャンプ開催となり、万全の感染対策体制を構築しての実施に球団及び関係機関と連携して取り組み、コロナ前の約3分の1以下となるものの31,480人の観客動員の実績を得た。

次に、新型コロナウイルス感染症拡大により影響を受けた事業者に対する支援の

取り組みについては、那覇市が実施した「那覇とまーるクーポン事業」の一部、土産クーポンと観光体験クーポンの取り扱いを受託し、会員企業をはじめ市域の観光関連事業者の支援に努めた。

次に令和3年度の観光誘客事業、那覇まちまーい（まち歩きガイド）、事業者を対象とした外国語講座など実施する外国人受入整備事業、観光案内所運営事業等は、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響し、その利用が低迷した。

収束しない感染症の中で、コロナ後を見据えた新たな観光サービスの創出に向けて、内閣府補助事業を申請・採択を受けて、新たな宿泊・体験サービス「滞在型・伝統工芸体験－SUGURIMUN」を創出した。現時点では令和4年度に事業繰り越して体験モニター実証（令和4年5～6月）を経て商品化に繋げることとしている。

また、那覇まちまーいの外国語版「NAHA Walking Tours」については、令和3年度もインバウンド受け入れが無く、販売が休止としたが、英語ガイドのスキル維持のため、研修等を実施してきた。

指定管理施設の運営については、令和3年度で福州園及び松山公園連携施設の運営を終えることとなり、後継の指定管理事業者に引継ぎを終えた。

II 令和3年度事業

1. 観光情報誌「NAHA-NAVI」発行事業

那覇市内のマップや首里城公園をはじめとする観光施設及び会員店舗案内を掲載した「NAHA NAVI」の発刊事業。県内の観光施設・宿泊施設・交通機関等に常設し来県する観光客の皆様にご利用していただくとともに、県外の旅行社、修学旅行関係者、学校、沖縄観光コンベンションビューロー県外事務所に随時送付している。

広告収入のみで刊行しているが、長らく続く新型コロナウイルスの影響を受け、広告掲載店舗の減少で厳しい状況であるが、ニーズにしっかりと対応する方向としている。

一般用	年3回発行	年間7.5万部
修学旅行用	年2回発行	年間10万部

2. 観光情報サイト「那覇ナビ」運営事業・那覇市観光協会ホームページ

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置がなされた中ではあったが、観光回復期に向けてホームページ及び多言語情報の管理運用の強化を図った。コロナ禍において人の移動が規制されるなかだからこそ、那覇市の旬な観光情報を魅力的かつ分かりやすく国内外への情報発信することに努めた。

アフターコロナに向けて那覇市を旅先として選んでいただけるよう、旅前の情報発信を強化しながら継続的な旬な情報発信に努めていく。

3. 県外での誘客宣伝及び那覇観光キャンペーンレディ派遣事業

那覇観光の“顔”として県内外の催事や祭り等における観光親善使節として毎年度「那覇観光キャンペーンレディ」を選出してきたが、コロナの影響でほとんどのイベントが延期・中止となり、県外誘客を含めて活動が制限されてきたことから、前年度のレディ（畑谷二千翔）の任期を延長し、特にSNS等の活用による那覇の情

報発信に取り組んだ。

令和4年度的那覇観光キャンペーンレディについては、応募者19人から3月に選出大会を開催し、普久原実咲、新里舞佳の2名を選出した。先の5月に認証式を終えて引継ぎ、今後のコロナ回復期に向けた那覇市の観光親善大使としての活躍が期待される。

4. MICEの取り組み

沖縄で開催される予定であったMICEも緊急事態宣言発令中は国内外における移動の自粛、開催会場となる施設における収容人数制限や開催にあたってのリスク回避などから、オンラインでの開催が多く、連携した取り組みは実施できていない。引き続き那覇市経済観光部や観光協会会員企業と情報共有し連携して取り組みを進める。

5. 「第3種旅行業」登録を活用した企画事業及び観光クーポン券取扱事業

新型コロナウイルス感染症の影響により沖縄への入域が減少している中、少しでも那覇市域の滞在時間の延長と市内文化施設の入館者増を目指して、識名園・玉陵・那覇市歴史博物館・那覇市立壺屋焼物博物館・福州園のうち複数施設を割安に観覧できる「共通クーポン」を制作し、9月より発売を開始した。

4施設クーポン 販売額 1,000円（最大400円割引）

2施設クーポン 販売額 500円（最大250円割引）

6. 那覇とま～るクーポン事業

那覇市が実施した「那覇とま～るクーポン事業」の観光体験施設及び土産品店関係の募集やクーポン換金業務を受託し、域内の需要喚起と地域経済の循環の促進に取り組んだ。

実施期間： 令和3年10月18日～令和4年1月31日

対象クーポン： 土産品・観光体験共通クーポン、観光体験クーポン

事業実績： 207店舗登録（土産品店159店舗 観光体験48店舗）

換金額： 2月締め時点 約120,119千円

7. 観光まちづくり整備事業「那覇まちま～い」事業

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出により、長期間に渡り、コース催行の中止を余儀なくされた。

近年、旅行形態が団体から個人型へ移行していたが、コロナ禍の3密回避からさらに急速化し、また同行者も友人同士から夫婦、パートナーといった家族間の割合が高まってきたため、まちま～いメニュー中の1組限定して案内する「たびあわせ」プランのPR強化に取り組んだ。

また、まち歩きだけでなく、新たな取り組みとして、伝統的な工芸技術をもつ職人から学べる「紅型体験」プランを造成し、販売を開始した。

8. NAHA Walking Tours 事業

「那覇まちまーい」事業の英語版となる事業。

今年度は商品として販売準備を進めたものの、新型コロナ緊急事態宣言やまん延防止等重点措置、オミクロン株等の拡大から販売を延期せざるを得ないものとなった。

コロナ収束後の販売開始を見据え、ガイド内容のブラッシュアップ、販路拡大に向けたホテル運営者向けのモニターツアー等に取り組んだ。

9. 新たな沖縄観光サービス支援創出事業

コロナ回復期における那覇市への誘客促進に寄与し、長期滞在及び高付加価値による地域消費の増を目的に、新たな生活様式に配慮しつつ、小規模分散型で地域のポテンシャル（自然・歴史・文化・食など）を生かした、ストーリー性のある新たな観光サービスとして、那覇市内で過ごす6泊7日のゆったりステイプラン『那覇の文化を体感する旅～SUGURIMUN（すぐりむん）～』を開発。

年度内でのモニターツアーがコロナの影響により不可能となったため、次年度に繰り越した。

- (1) 那覇の伝統工芸品（首里織・壺屋焼）に着目し、専門家の直接指導を受け、時間をかけて精度の高い作品を創り上げる体験メニューを造成。
- (2) 伝統工芸が産出された地域の歴史、民俗、風習等への興味・関心を高める新たなまちあるきコンテンツに位置付けた。

10. 琉球文化日本遺産事業

那覇市と浦添市の両観光協会が共同事業体として連携し、令和元年度より養成した「日本遺産ガイド」の活動に向けて、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったモデルコースの造成及びモニターツアーを実施した。

日本遺産の認定ストーリーの解説や世界遺産との違いなどをわかりやすく案内していくプランに仕上がった。

【モデルコース】

- ① 浦添グスク・ようどれ 約100分コース
- ② 国立劇場おきなわ・組踊体験 約90分コース
- ③ 首里城 約100分コース
- ④ 久米さんぽ 約100分コース

11. 那覇市観光案内所・ショップ運営事業

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開所時間を5月24日から9月30日まで開所時間を短縮した。（時短営業）

問い合わせが少ない中ではあるものの、ニーズにしっかり対応するため、観光施設の開所状況やイベント開催中止等の情報収集を行い各種問合せに対応した。

来所者数は、以下のとおりである。

※令和3年度那覇市観光案内所来所者数

（令和4年3月末現在）

国内籍：30,441人 1.93%増（令和2年度：29,865人）

外国籍： 325人 14.44%増（令和2年度： 284人）
合計： 30,766人 2.05%増（令和2年度：30,149人）

併設の「ショップなは」では、導線・陳列・ライトアップの見直しを図った。
収支状況は、以下のとおりである。

収入 令和3年度 8,719千円（令和4年3月末現在）
令和2年度 4,722千円
支出 令和3年度 11,003千円（令和4年3月末現在）
令和2年度 8,292千円
収支 令和3年度 ▲2,284千円（令和4年3月末現在）
令和2年度 ▲3,570千円

12. 外国人観光客受入整備事業

新型コロナウイルス感染症拡大により、出入国制限で外国人観光客の来沖は無かったため、観光業従事者を対象とした語学講座・語学サポートを実施したが利用者は例年を著しく下回る水準となった。

また、多くのイベントが中止となり通訳等のサポート依頼が無く、翻訳サポートに関しては那覇市からの依頼が主なものとなった。

なお、観光情報発信については、観光情報サイト「NAHA-NAVI」で多言語による情報発信を14回実施した。

語学講座（英語・中国語・韓国語）	全講座オンライン実施
サポート講座（英語・中国語・韓国語）	オンライン講座
多言語マップ制作 韓国語・中国語（簡体）	2,000部

13. クルーズ船受入推進事業

県内5港湾に寄港する国内クルーズ船の寄港受入に関する合意を得ることを目的に2021年1月に発足した沖縄県クルーズ船受入協議会の作業部会にあたる地域協議会は、北部、中部、那覇・南部、宮古、八重山の5地域で設置されている。当協会は「沖縄県クルーズ船受入那覇・南部地域協議会」へオブザーバーとして参加しており、クルーズ船の寄港受入の事前調整や感染者確認されたクルーズ船の受入体制の構築など医療や搬送にかかる情報などの共有に努めている。

那覇港の2021年（暦年）の岸壁予約は301件（2021年1月6日時点）を予定していたが、2020年より続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響で国内外のクルーズ船の運休や廃船が続いた一年となった。

14. 松山公園文化交流施設管理運営事業

松山公園文化交流施設については、福州園が再整備工事に伴い1年間休園となった。

今年度は、指定管理最終年度となっており、次期5年間の指定管理応募について検討したものの、福州園入園者の6割程度がインバウンド客であること、指定管理仕様の大幅な改正により、当協会の指定管理に人的対応と積算収支対応に困難が想定されたため、応募を見送った。今期の3月末をもって指定管理運営業務を終了し、次期指定管理者に円滑に業務を引き継ぐ。

15. 島ぜんぶでおーきな祭「沖縄国際映画祭」

令和3年度は「今年はちいさくおーきな祭」をキャッチフレーズに4月17日・18日の2日間、県内各所で長編・短編の映画上映やアート展、配信イベントなど、新型コロナウイルスの感染予防対策を重視しながら開催された。当協会は「なは応援団」を担っている。

16. 那覇ハーリー

新型コロナウイルス感染症拡大につき中止

17. 那覇大綱挽まつり

新型コロナウイルス感染症拡大につき中止

18. 琉球王朝まつり首里

第56回琉球王朝祭り首里は新型コロナウイルス感染対策上、参加者や観客の安全確保のため、首里城公園内で人数を制限して古式行列のみの実施となった。

19. NAHAマラソン

新型コロナウイルス感染拡大防止のため第36回NAHAマラソン大会を昨年を引き続き延期し、「絆 2021 ON-LINE NAHA マラソン」の実施となった。当協会は「ショップなは」にてオンラインマラソン返礼土産品納入の一部を担った。

実施期間：令和3年11月13日(土)～12月12日(日)

参加者数：4,368名(県内2,301名 県外2,065名 外国2名)

20. プロ野球「読売巨人軍春季那覇キャンプ」

昨年度は新型コロナウイルスによる影響で無観客でのキャンプとなったが、今年は感染症拡大防止対策を講じ、2年ぶりの有観客での実施となった。

当協会は那覇市、那覇商工会議所、那覇市観光協会の三者で構成する、読売巨人軍那覇協力会の一部を担い、会員募集と那覇キャンプオリジナルかりゆしウェアの製作・販売を実施し、読売巨人軍キャンプ支援に取り組んだ。

21. 観光地域づくり法人DMO登録の取り組み

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で那覇市観光統計が未実施となっており、KPIとPDCAチェックなどに影響を受けた。また、緊急事態宣言の延長やまん延防止措置などにより関係団体との情報交換が密にできない状況も出てきた。

そのような中ではあったが、観光地域づくり法人(地域DMO)の使命ともなる、地域の磨き上げの一環として、当協会と日本旅行業協会沖縄支部が連携し、観光地美化清掃活動を実施した。

22. 那覇市観光協会の会員拡大と組織の強化事業

新型コロナウイルス感染症拡大の長期化により県内観光関連産業・県内経済に大きな影響を与えている。協会会員企業についても厳しい状況が続いており、若干ではあるが退会が増加している。当協会としては、会員企業の広告媒体へのバナーの無償掲載など進め、会員企業支援に努めた。

現会員数(令和4年3月末現在) : 374社
令和3年度入退会実績 : 入会20社、退会30社

23. 那覇市観光協会のSDGsの取り組み

今年度は、当協会と全国旅行業協会沖縄県支部と連携し、安心・安全・快適な持続可能な観光地づくりを目標に清掃活動を実施した。

第1回 : 「那覇市国際通り」 参加者約100人

第2回 : 「波の上ビーチ」 参加者約100人

第3回 : 「首里城」 参加者約100人

なお、第2回の波の上ビーチの清掃活動は、小笠原諸島の海底火山噴火による軽石が那覇市唯一の波の上ビーチにも漂着したことから除去作業を実施した。